

Book

図書の特集

図書館からお勧めの本をご紹介します
 鮫川村図書館（村歴史民俗資料館内）
 ☎ 49-3106

なでし子物語

（伊吹有喜著、ポプラ社）



目を閉じて我慢すればいい...そうすればいつか終わる。大人の勝手な都合に振り回され、居場所のない少女と体の弱い少年。暖かい輪の中で少

しずつ顔をあげて美しく生きることを学んでいく。やらまいか！新しい自分をつくるんだ！

天皇陛下と皇后美智子さま

至高の愛の物語

（今田龍子著、ハースト婦人画報社）



「語らひを重ねゆきつつ気がつきぬわれのこころに開きたる窓」と詠まれた美智子さまとのご婚約から50余年。おふたりの祈り、語らい、慈しみ...大きな愛の軌跡の写真集です。

第3土曜日は 家族一緒に読書の日



卓球やっ会

岩野草女性卓球愛好会／会員10名

毎週金曜日、岩野草集落の女性たちが集まり、卓球で汗を流しています。活動が始まったのは昨年の十一月。集落の集まりの際に、卓球台があることに気付いたことがきっかけとなりました。活動を開始して数回、ラケットを握るのは学生時代以来という人からまったくの初心者という人までいます。「最初は空振りばかりでしたが、やっとラリーが続くようになってきました」とうれしそうに話します。

「来られるときに気軽に集まっています。親睦を深めることが一番の目的です。卓球をやるときは、みんな真剣。そして、休憩をしながらおしゃべりをするのが楽しいなんです」と和気あいあいとした雰囲気伝わってきました。

集落の女性たちが卓球で親睦深める

さめがわを 彩る集い 9

鮫川スポーツ少年団の学童野球部を指導し、今年で五年目になります。長男が四年生のときに入団し、それから週末は子どもたちと一緒にボールを追いかけています。初めはボールを怖がっていた子どもたちが、いつの間にか大人顔負けのプレーをするように成長していきます。子どもとの親子対決はいつも真剣勝負です。思い切り投げたボールを打ち返されたときは本当にうれしいものです。

鮫川は子どもの人数が少なく試合には経験の少ない選手や下級生が出場しないといけません。なかなか勝利には遠いですが、昨年は劇的な勝利が訪れました。小さなチームが最終的に七点差をひっくり返してサヨナラ勝ちをしたので

村民【随想】リレー ①76

湯座和志さん

野球を通して

次は、藤田芳明さん（赤坂西野字岡田）にバトンタッチ！

今年も最後の年となります。野球を通して、スポーツの楽しさや悔しさ、友情などを育み、大人になっても野球を楽しめるような指導をスタッフとともにできたらと思います。



ゆざ・かずし ●昭和43年3月生まれ。赤坂中野字真坂在住。白河日東工器（白河市）勤務。趣味は野球。「日々努力」を心掛けている。

KAZUSHI YUZA

俳句

ろう梅に七つの影のめじる飛ぶ 中井 恒峯
 大寒や紙漉職人大往生 斎須 信子
 小鳥達寒さに堪えて春を待つ 小松ハル工
 帰京の子着きしや細雪暮る 黒田 寿香
 明け方の夢かうつつか寒の雨 鈴木 米子
 南部鉄ひとりそぼえる団炉裏端 土 竜庵
 穂やかに里山包む冬日影 前田 縫子
 佐渡裕福るが如く指揮を執る 北條素人坂
 孫立礼スーツきりりと成人式 松本 精一
 直売所バックに入ったふきのとう 山本 恵子
 亡き父の声懐わるる鬼やらい 山本五十鈴

短歌

避難所のドキメンタリに胸打たる 鈴木イミ子
 援け合う絆は復興の力 前田 初
 斯く為せばかくあるものと思わず やいつまで続く弱腰外交 佐藤 春枝
 軒下の子つばめの巣の賑やかに餌待つ口元四つが並ぶ 須藤 幸子
 冬の花雪を成らせて一時の光ちりばむ 庭の木々たち 水野 珠子
 体重をとかく気にする年齢となり選ぶ野菜のあれこれ多し 関根 瑞恵
 来ぬ人の影を追いつつ庭先に出づればちちと小鳥らの群れ

大雪の日には群れ来る小鳥たち南天の実が餌となるらし 溝井 清乃
 冬の仕事少なくなりぬテレビなど観てる茶の間を覗く雲かけ 坂本 伊紀
 老いというこの境遇に甘えずのベンの仕事の厳しさに生く 一 平子
 淡き陽をうけて一人の部屋に居て思いめぐらす夫との日々を 石井 幸子
 巡り来し春の集いのクロリティー熱気に溢れ老い等は励む 須藤シツエ
 黄昏て哀愁さそう童謡に児童生徒の影は見受けず 松本 一郎
 新年を子供と共に迎えられ平和の喜び感謝の極み 前田喜三子
 原発事故有害物を撒き散らす被爆を避ける心配りを 藤田千代子
 子等帰り二人に戻りて小正月鉢植えの梅夫と眺むる 関根ハナヨ
 豪雪もいつかな消えて春息吹く灰かな陽を受け福寿草咲く 関根 富久
 被災地の住み居る家族の映像に厳寒思えば悲惨の伝わる 鷺野谷 満
 人あらばその数なりのチームあり八十路の面々輪投げ競えぬ 板橋 源良
 閉め切りし戸を開け放ち背伸びする陽差し明るき大寒の朝 関根キヌ子
 浅川の大晦日花火の音止めば遠くに除夜の鐘の音聞こゆ 矢吹 一二
 豪雪の消えずも光り知らず小鳥の囀りひととき賑わう 北條 平

若者の広場 No. 99

Young Plaza

■今、夢中になっていることは何ですか？

会社内では、周りに車好きの人が多いため、その影響を受けて車に興味を持ち始めました。

■これから新たにやってみたいことや目標はありますか？

スポーツが好きなので、何か体を動かせる趣味を新しく見つけたいです。小学生のときから続けている野球のほかにフットサルにも挑戦してみたいです。

■村に住んでいて感じることや現在の村について思うことはありますか？

ちょっとした物を買うにも村外まで行かないといけ

ないのでは不便だと思います。でも、それ以外は特に不便だと感じるようなことはありませんね。

■これからの鮫川村に望むことはありますか？

新聞で村の給食センターが全国大会に出場した記事を見ました。そんなふうの良い話題で「鮫川村」という名前を広めていってほしいです。もっと村外から注目されるような村になればと思います。

次は溝井明菜さん（赤坂東野字大竹在住）の予定です。

良い話題で注目される村に

矢吹雄太さん



やぶき ゆうた
平成3年11月4日生まれ 21歳
A型 さそり座
趣味はスポーツ
赤坂中野字宿ノ入在住

学校だより

(101)

鮫川小学校編

福は内！「豆まき集会」

五年生三十一人が各学年各学級へ出向いて「豆まき〇×クイズ」「お笑い劇」「豆まきの紙芝居」など、グループごとに創意工夫を凝らした企画で楽しませてくれました。その後、元気な声で「鬼は外！福は内！」と叫んで豆をまくと、子どもたちは夢中になって豆を拾っていました。活気あふれる「さめっ子」たちの姿に福の神もにっこりとほほ笑んだことでしょう。



豆まきをする5年生

チームワークを披露「なわとび集会」
低学年から高学年までの縦割りチームによる「二分間の

春から新1年生「1日入学」

「〇〇さん、「はい」。本校へ入学予定者三十人の元気いっぱい声が響き渡りました。本校の一年生と二年生の歌や呼びかけなどの歓迎を受けて、四月の入学式がますます楽しくなってきました。うです。



1日入学

(文・写真／鮫川小学校)

優勝し、チームワークの良さが認められ、みんなの喝采を浴びました。



なわとび集会

アケビの「つる」で作ったつる籠。自宅の部屋のあちらこちらに飾られています



「つる」を編んで作る「つる籠」作り名人の蛭田吉郎さん。
「山の手入れをしていたときに、木などに絡まっていた『つる』を切っていて、ただ捨てるのはもったいないと思いました。何か利用できないかと考えたことがきっかけです」
独学で作り始めた吉郎さん。「最初は、編んではほめての

繰り返しで、試行錯誤しながら作りました」。籠に台を付けるのは吉郎さんのオリジナル。籠をより安定させるためのひと手間を加えています。
つる籠作りをするのは冬期間。「夏は『つる』に虫が入ってしまうし、編むには適度に水分が抜けているこの時期がちょうどいいんですよ」と教えてくれました。

材料となる「つる」は、藤や山ブドウ、マタタビ、アケビなど弾力性のあるものを使います。その中でもアケビは真っすぐ育たず節があったりするので、完成したときの形が面白いと、吉郎さんのお気に入りです。
「つる」は一つ一つ形が違うので、籠もまったく同じものができないのが魅力です。知り合いなどにも喜んでもらえます」

おらの名人・達人 Vol. 8

つる籠作り名人 蛭田吉郎さん

ひるた・よろう／渡瀬字田野上在住／74歳

ただ捨てるのはもったいない。まったく同じものができないのが魅力



はじめに籠の部分を編み、その後台を作り「つる」で固定します